令和８年10月

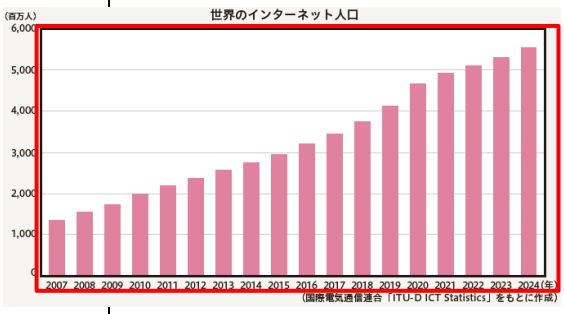
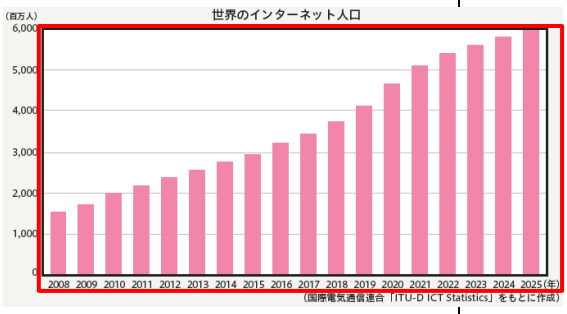
令和８年度用高等学校教科書の訂正に関するお知らせ

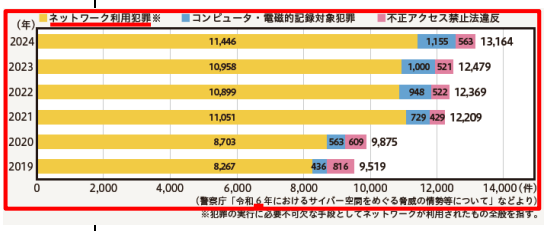
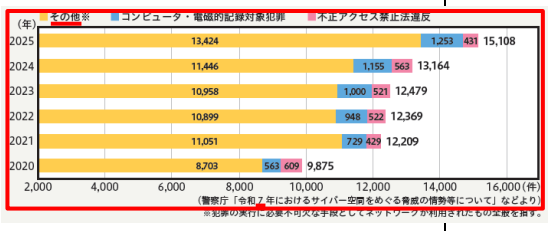
現在ご使用いただいております弊社発行の高等学校教科書『情報Ⅱ（情Ⅱ　703）』につきまして、以下、訂正がございます。先生方、生徒、保護者の方々に大変ご迷惑をおかけいたします。深くお詫び申し上げます。

誠に恐縮ではございますが、当該箇所につきましてご指導の際にご留意いただきますようお願い申し上げます。

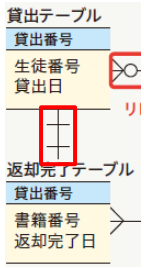
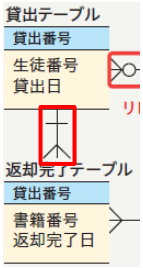
日本文教出版株式会社
高校情報編集部

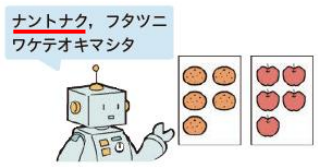
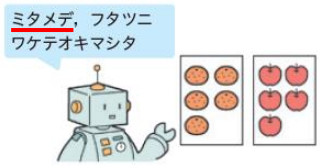
高等学校『情報Ⅱ（情Ⅱ　703）』

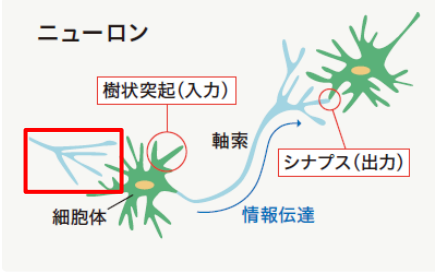
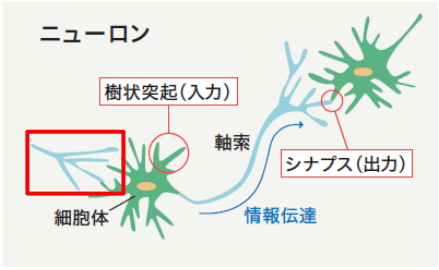
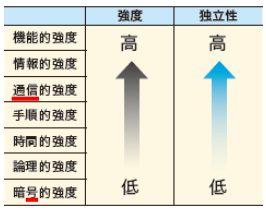
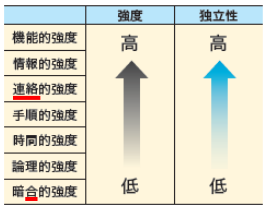
頁・箇所	原文（誤）	訂正文（正）	理由
15頁・図1上			統計資料の更新のため
17頁・14～20行目	～また，同じような考え方に「情報へのアクセスのしやすさ」を意味する**アクセシビリティ**❿や，「ハードウェアやソフトウェア，Webサイトなどの使いやすさ」を意味する**ユーザビリティ**⓫もある。 個人でも簡単に情報発信ができるようになったいま，ユニバーサルデザインの考え方を強く意識するとともに，アクセシビリティやユーザビリティへの配慮もよりいっそう求められている。	～ユニバーサルデザインが掲げる「すべての人にやさしい社会」をつくるには，「情報へのアクセスのしやすさ」を意味する**アクセシビリティ**❿や，「ハードウェアやソフトウェア，Webサイトなどの使いやすさ」を意味する**ユーザビリティ**⓫を高めていくことが大切である。個人でも簡単に情報発信ができるようになったいま，ユニバーサルデザインをはじめ，アクセシビリティやユーザビリティへの配慮がよりいっそう求められている。	「ユニバーサルデザイン」を、「アクセシビリティ」および「ユーザビリティ」と同列の用語として受け取られないようにするため

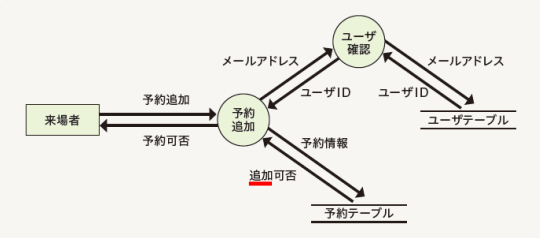
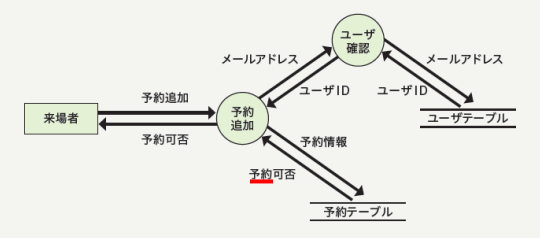
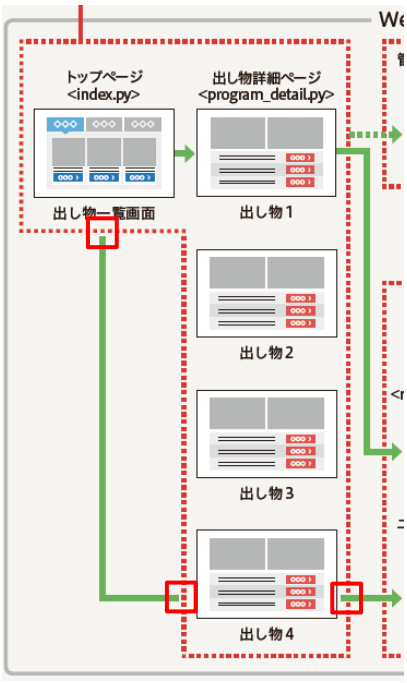
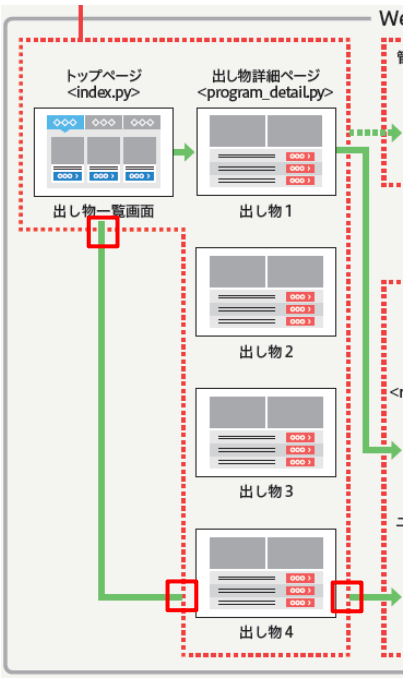
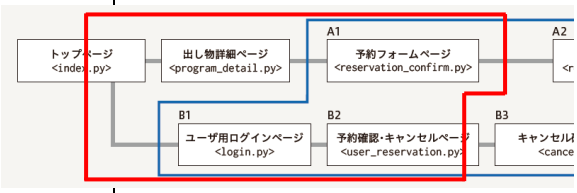
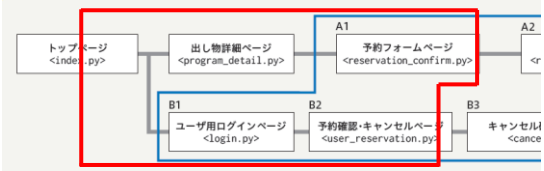
頁・箇所	原文(誤)	訂正文(正)	理由
20 頁・9 行目	～**対象犯罪**，ネットワーク利用犯罪の３つに大別される。～	～**対象犯罪**，その他ネットワークを利用した犯罪の３つに大別される。～	「ネットワーク利用犯罪」という語が一般的な分類の呼び方でなくなったため
20 頁・図 1			統計資料の更新のため
23 頁・16 ～ 18 行目	**●プロバイダ責任制限法❾** Web サイトなどで他人への権利侵害が行われた場合に，被害者が請求できる権利とサイトの管理者（プロバイダ）が行うべき対処を定め，プロバイダの責任の範囲を明確にしている。	**●情報流通プラットフォーム対処法❾** Web サイトなどで他人への権利侵害が行われた場合に，被害者が請求できる権利とサイトの管理者（プロバイダやサーバの管理・運営者）が行うべき対処を定め，その責任の範囲を明確にしている。	法律名などの変更・改訂のため
23 頁・側注⑨	**❾プロバイダ責任制限法** 正式名称は「特定電気通信役務提供者の損害賠償責任の制限及び発信者情報の開示に関する法律」。2002 年施行。	**❾情報流通プラットフォーム対処法** 正式名称は「特定電気通信による情報の流通によって発生する権利侵害等への対処に関する法律」。2025 年施行。	p. 23・16～18 行目の訂正に伴う修正
23 頁・側注⑪	**⓫青少年インターネット環境整備法** 正式名称は「青少年が安全に安心してインターネットを利用できる環境の整備等に関する法律」。当初は「有害サイト規制法」などとも呼ばれていた。2009 年施行。 法律に違反した事例を調	**⓫青少年インターネット環境整備法** 正式名称は「青少年が安全に安心してインターネットを利用できる環境の整備等に関する法律」。2009 年施行。 法律に違反した事例を調	現在の状況に合わせるため
24 頁・35 ～ 37 行目	［選択肢］ ア 出会い系サイト規制法　イ 個人情報保護法 ウ プロバイダ責任制限法　エ 青少年インターネット環境整備法 オ 特定電子メール法　カ 不正アクセス禁止法	［選択肢］ ア 出会い系サイト規制法　イ 個人情報保護法 ウ 情報流通プラットフォーム対処法　エ 特定電子メール法 オ 青少年インターネット環境整備法　カ 不正アクセス禁止法	p. 23・16～18 行目の訂正に伴う修正と、体裁の調整のため

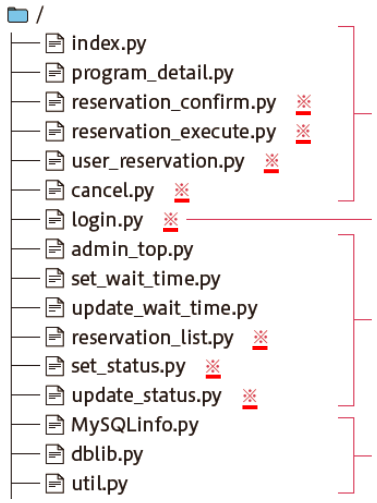
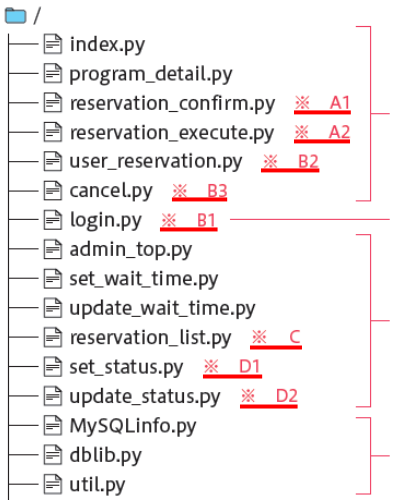
頁・箇所	原文(誤)	訂正文(正)	理由
25 頁・12 行目	**ウ　ネットワーク利用犯罪**	**ウ　その他ネットワークを利用した犯罪**	p. 20・9 行目の訂正に伴う修正
26 頁・20 ～ 23 行目	**エの「青少年インターネット環境整備法」は，青少年をネット上の有害な情報から守るための法律。** **オの「特定電子メール法」は，無差別に送信される広告メールなどを規制する法律。**	**エの「特定電子メール法」は，無差別に送信される広告メールなどを規制する法律。** **オの「青少年インターネット環境整備法」は，青少年をネット上の有害な情報から守るための法律。**	24 頁・35～37 行目の訂正に伴う修正
30 頁・8～9 行目	～定量的調査は事前に立てた仮説に従って調査を実施し，数量を集計して結果をまとめる。定性的調査は**インタビュー**や**行動観察**❶などを行い，～	～定量的調査は数として集計できるアンケート調査などを行い，定性的調査は**インタビュー**や**行動観察**❶などを行って，～	よりわかりやすい表現にするため
30 頁・14 行目	～問題点を整理し、問題解決の仮説を作成する～	～問題点を整理し、解決策を導くための仮説を作成する～	よりわかりやすい表現にするため
30 頁・20 ～ 23 行目	ユーザ調査から典型的なユーザを想定し，ペルソナ（人物像）として設定する。そのペルソナが利用する流れやようすをシナリオとしてまとめる手法で，ペルソナの設定にあたっては，年齢や性別といった基本情報のほか，好みや目標などの要素を用意する。	ペルソナ法では，ユーザ調査から典型的なユーザを想定し，ペルソナ（人物像）として設定する。ペルソナの設定にあたっては，年齢や性別といった基本情報のほか，好みや目標などの要素を用意し，その行動を後述の構造化シナリオ法などに生かす。	ペルソナ法と構造化シナリオ法のそれぞれの意味を明確化するため
32 頁・17 ～ 20 行目	～発信し共有しようとする者が増えた。このような行動形態に照らし合わせて，ユーザが「情報を広めたい」と**興味を持つ部分**と，ユーザが「商品を買いたい」と**行動する部分**を切り分けてメディアを選別し，コンテンツを配信していくという考え方も広まっている。	～発信し共有しようとする者が増えた。 このような実情に照らして，ユーザの行動形態を，「情報を広めたい」と**興味を持つ部分**と，「商品を買いたい」と**行動する部分**とに切り分けてとらえるという考え方が広まっている。	よりわかりやすい表現にするため
36 頁・図 1 上	**サーバ上のプログラムの内容を書き換えない限り同じものが表示される。**	**サーバ上のコンテンツの内容を書き換えない限り同じものが表示される。**	よりわかりやすい表現にするため

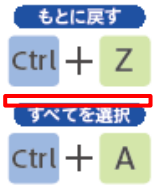
頁・箇所	原文(誤)	訂正文(正)	理由
37 頁・13 ～ 17 行目	HTTPS は，データの送受信を暗号化する SSL/TLS プロトコルを利用して， HTTP による通信を安全に行う。HTTPS に対応した Web ページでは，通信内容の盗み見を防げるほか，電子証明書により，Web サイトが実在する運営組織によって公開されていることを確認できる。なお，HTTPS に対応した Web ページにするには，認証局から **SSL サーバ証明書❺**を発行してもらう必要がある。	HTTPS は，データの送受信を暗号化する TLS プロトコルを利用して，HTTP による通信を安全に行う。HTTPS に対応した Web ページでは，通信内容の盗み見を防げるほか，電子証明書により，Web サイトが実在する運営組織によって公開されていることを確認できる。なお，HTTPS に対応した Web ページにするには，認証局から**サーバ証明書❺**を発行してもらう必要がある。	現在の状況に合わせるため
37 頁・側注⑤	❺SSLサーバ証明書 SSL server certificate Webサイトが実在する運営組織によるものであることを確認し，ブラウザとWebサーバ間で通信データの暗号化を行う電子証明書。	❺サーバ証明書 server certificate Webサイトが実在する運営組織によるものであることを確認し，ブラウザとWebサーバ間で通信データの暗号化を行う電子証明書の一種。	現在の状況に合わせるため
48 頁・11 ～ 13 行目	～想定し，その人であればどのような行動をとるかをシナリオにまとめる手法がよく使われる。また，(C) コンテンツが利用される場面を具体的に想定して要件を定義する手法もある。	～設定し，その人であればどのような行動をとるかを想定するのに生かす手法がよく使われる。また，(C) コンテンツが利用される場面を具体的に想定してシナリオとして整理し、要件を定義する手法もある。	p. 30・20～23 行目の訂正に伴う修正
50 頁・27 行目	④SSL/TLS プロトコルによって～	④TLS プロトコルによって～	p. 37・13～17 行目の訂正に伴う修正
63 頁・11 行目	～フィールドによって複数のテーブルを結合し，～	～キーによって複数のテーブルを結合し，～	よりわかりやすい表現にするため
64 頁・図 2			よりわかりやすい表現にするため
68 頁・図 2 右			よりわかりやすい表現にするため

頁・箇所	原文(誤)	訂正文(正)	理由
75 頁・図 1			より適切な表現にするため
76 頁・表 1 内	**フィルタ法❷** 変数（説明変数）の１つ１つを評価し，評価の高い変数を選択する。ただし，変数を評価するときには，予測値との関連は一切考慮しない。機械学習の前処理として行う。 **ラッパー法❸** 説明変数と目的変数との組み合わせを１つ１つ評価し，評価の高い変数を選択する。フィルタ法より計算時間はかかるが，より精度の高い変数を選び出せるというメリットがある。機械学習の前処理として行う。	**フィルタ法❷** 変数（特徴量）を１つずつ統計的に評価し，評価点の高い変数を選択する。評価には目的変数との関連は考慮するが，モデルを用いた性能評価は行わない。機械学習の前処理として行うことが多い。 **ラッパー法❸** 変数（特徴量）の部分集合（組み合せ）を候補とし，モデルで検証した予測性能を評価基準として，性能の高い部分集合を選択する。フィルタ法より計算時間はかかるが，より精度の高い変数を選び出せるメリットがある。機械学習の前処理や，モデル選択の際に実施する。	よりわかりやすい表現にするため
77 頁・側注⑦	**❼特徴量抽出** feature extraction 特徴抽出ともいう。訓練データをすべて使って計算したのち，その結果から有用な特徴のものだけを選び出すこと。主成分分析や線形判別分析などの方法がある。	**❼特徴量抽出** feature extraction 特徴抽出ともいう。もとの特徴量を変換・合成して，新しい(多くの場合低次元の)特徴量をつくること。主成分分析や線形判別分析などの方法がある。	特徴量抽出の意味をより明確化するため
78 頁・14 行目	ただしこの分析を精査するために，～	この分析を精査するために，～	よりわかりやすい表現にするため
80 頁・6～7 行目	～分類の基準が学習により決まる点で，～	～正しく分類されたデータを用いて分類の基準を学習するため，～	よりわかりやすい表現にするため
80 頁・14 ～ 15 行目	～データを２つに分類する場合は，2 項モデルを，３つ以上に分類する場合は多項モデルを使う。	～一般に，ロジスティック回帰ではデータを２つに分類するが，３つ以上に分類する方法（多項ロジスティック回帰）もある。	よりわかりやすい表現にするため

頁・箇所	原文(誤)	訂正文(正)	理由
84 頁・図 1 左			よりわかりやすい表現にするため
100 頁・14 ～ 17 行目	～開発にかかわる人が多くなるほど細心の配慮が求められる。さらに，情報システムに障害が発生し，機能が停止してしまえば，社会に大きな混乱や損失が生じる。このようなことを防止するために，開発時には耐障害性や信頼性を高める工夫が必要になる。	～開発にかかわる人が多くなるほど細心の配慮が求められる。仮に，情報システムに障害が発生し，機能が停止してしまえば，社会に大きな混乱や損失が生じる。このようなことを防止するためには，開発から運用・保守に至るまで，適切なプロセスを踏む必要がある。	システム開発の流れや重要性をより明確化するため
105 頁・側注③	❸GPS Global Positioning System 全地球測位システム。人工衛星からの電波を受けて，緯度，経度，高度，時刻を知ることができる。 ❹GIS	❸GPS Global Positioning System 米国が運用する衛星測位システム（Global Navigation Satellite System：GNSS）のこと。人工衛星からの電波を受けて，緯度，経度，高度，時刻を知ることができる。	より適切な表現にするため
107 頁・8 行目	～するために，ユーザを識別するしくみが設けられている。～	～するために，ユーザの操作を制限するしくみが設けられている。～	よりわかりやすい表現にするため
109 頁・表 1 内	**フェールセーフ** **障害が発生した場合，安全な状態でシステムを停止させる。**	**フェールセーフ** **障害が発生した場合，システムを安全な状態に移行または停止させる。**	よりわかりやすい表現にするため
110 頁・14 ～ 15 行目	～システムを成長させていくモデルを**スパイラルモデル❷**という。	～システムの完成度を高めていくモデルを**スパイラルモデル❷**という。	よりわかりやすい表現にするため
114 頁・側注②下			より一般的に用いられている用語にするため

頁・箇所	原文(誤)	訂正文(正)	理由
123 頁・図 4			よりわかりやすい表現にするため
150 頁・10 行目	～と各回の運営時間などを表示する。～	～や運営時間などを表示する。～	よりわかりやすい表現にするため
150 頁・図 1			よりわかりやすい表現にするため
162 頁・図 1			p. 41 の図 1 で示すつながりと合わせるため

頁・箇所	原文(誤)	訂正文(正)	理由
163 頁・図 6			p. 162 ～ 163 で取り上げている画面との対応を明らかにしてわかりやすくするため
164 頁・中段	SQL ..... 67, 86 SSL サーバ証明書 ..... 37 STS 分割法 114, 124	SQL ..... 67, 86 STS 分割法 ..... 114, 124 削除	教科書本文に登場する語の訂正に伴う修正
165 頁・右段	さ サーバログ取得型 ..... 38 最小二乗法 78	さ サーバ証明書 ..... 37 サーバログ取得型 38	教科書本文に登場する語の訂正に伴う修正
166 頁・左段	人工知能 ..... 18, 資料 1 深層学習 ..... 18, 85, 資料 2 信頼係数 ..... 58 信頼度 58	情報デザイン ..... 17 情報流通プラットフォーム対処法 ..... 23 人工知能 ..... 18, 資料 1	教科書本文に登場する語の訂正に伴う修正
166 頁・右段	ね ネットワークモデル ..... 62 ネットワーク利用犯罪 20	ね ネットワークモデル ..... 62 削除	教科書本文に登場する語の訂正に伴う修正
167 頁・左段	プロトタイプ作成ツール ..... 34, 41 プロバイダ責任制限法 ..... 23 分岐網羅 ..... 118 分散処理 103	プロトタイプ作成ツール ..... 34, 41 分岐網羅 ..... 118 削除 分散処理 103	教科書本文に登場する語の訂正に伴う修正

頁・箇所	原文(誤)	訂正文(正)	理由
資料 5 頁・図			一般的なキーボード配列の仕様変更のため
資料 6 頁・右下			一般的なショートカットキーの操作方法に再構成するため

以上